

# ヨコトリツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!

VOL.9  
OCT.2014

### ヨコハマに漂着した教室に学ぶ

釜ヶ崎芸術大学特集



「ヨコトリツ! (Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター「ハマトリツ!」による手作りのフリーペーパーです。「トリツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat!」(「トリック オア トリート!」)はお菓子をくれないかイヤタズするぞ!)から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指しています。

**ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」**  
会期: 2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝) | 主会場: 横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)  
アーティストック・ディレクター: 森村泰昌  
ヨコハマトリエンナーレ2014公式WEBサイト <http://www.yokohamatriennale.jp/>

## サポーター、新港ピアに全員集合!

10月29日(水)、サポーターの集いがある。アーティストック・ディレクターの私も参加する。ヨコトリサポーターのための特別な催し。思えばサポーターの皆さんが大集合するとうい機会、これまでそんなにはなかった。サポーター登録をしても、なかなか次の一歩を踏み出せなかったというひとも、ぜひこの機会にお越しください。みんなで楽しいひとときをすごしませんか。

皆さんからの要望もあり、当日は新港ピア会場で私のツアーガイドを実施、そのあとカフェオリーブピオンにて飲食しながら、忌憚のない質疑応答などもやってみよう。

ヨコトリの会期も後半にさしかかったが、サポーターの活動を影ながら拝見しつつ、こんなにも熱心に活動が続けてくださる皆さんを、もっと積極的に組みこんだ運営プログラムは出来ないものかと考えさせられる。組織というものは何処もなかなかの堅いところがあつて自由がきかないが、ここを突破すれば、なにかとても素敵な連携が可能になるのではないだろうか。

話は変わるが、去る10月11日、ヨコトリ2014のカタログが刷り上がり、ついに刊行の運びとなった。三六八ページのヨコトリ史上、もっとも分厚い本になった。刊行日は、ちょうど新港ピアで、やなぎみわさん、都築響一さん、そして私の三人のトークがあつて、この三人のサイン会を開催したこともあり、数時間間で一気に百冊近く買っていた。



### Morimura Yasumasa 森村泰昌

【森村泰昌 プロフィール】1951年、大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。1985年、ゴッホの自画像に扮したセルフポートレート写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20世紀の偉人たちに扮した写真や映像作品を制作している。ヨコハマトリエンナーレ2014アーティストック・ディレクター。

©Morimura Yasumasa + ROJIAN

横浜トリエンナーレ サポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー「ヨコトリツ!」VOL.9 ●企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター ハマトリツ! フリペーパー(青木邦彦/上田良寛/江藤真央/大島由理香/齊藤照子/田所望/田中久美子/林田将来/深野一穂/山田崇之) ●カバーアート: 野口みちの ●紙面デザイン: 山田崇之/大島由理香 ●発行日2014年10月20日 ●発行元:お問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局【横浜市中区日/出町2-158 黄金町エリアマネジメントセンター内】TEL: 045-325-8654 ●横浜トリエンナーレ サポーター 公式WEBサイト <http://www.yokotorisup.com>

次号予告 ヨコハマトリエンナーレ2014閉幕、忘却の海の行方は…… 11月中旬発行予定!

### Hama-Treats! Event Calendar

\*イベントの開催日時・場所・内容は予告なく変更される場合があります。最新情報はハマトリツウェブサイト、またはヨコトリ公式ウェブサイトにてご確認ください。

#### サポーターズサQ

座学講座などのヨコハマトリエンナーレ2014をより深く知るためのプログラムです。

#### アート×横浜市 (全3回予定)

横浜市職員などまちの運営を担っている方々からお話を直接伺い、新たな視点で横浜市を見つめる試み。今回はものづくりの視点から、横浜発のプロジェクトを考察します。

●Vol.3 創発されるものづくり～協働の現場から

日 時: 10/22(水) 19:00~21:00(受付18:30~)

場 所: 富士通エフサスみなとみらい Innovation & Future Center  
横浜市西区みなとみらい2-3-3 クイーンズタワーB棟9階

定 員: 先着100名

登壇者: 栗栖良依(スローレーベルディレクター/ヨコハマパトリエンナーレ2014総合ディレクター)  
新谷雄一(横浜市文化観光局創造都市推進課係長)

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトより事前申込

参加費: 無料

#### しばいたるか現代アート (全5回予定)

横浜美術館首席学芸員の天野太郎さんの、アートコラム。

●Vol.5 社会と美術の繋がり

日 時: 10/24(金) 19:00~21:00

場 所: 黄金町 高架下スタジオ Site-D 集会場  
横浜市中区黄金町1-2番地先

定 員: 30名

登壇者: 天野太郎(ヨコハマトリエンナーレ2014コレトリアルヘッド)  
ヨコトリキュレーションチーム

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトより事前申込

参加費: 無料

#### 和田昌宏を解剖する (全3回予定)

ヨコハマトリエンナーレ2014 出品作家である和田昌宏さんご本人が、過去作品を上映しながら、アーティストとしての思い入れなどを語っていただきます。

●Vol.3

日 時: 10/25(土) 時間未定(決定次第ウェブサイトにてお伝えします)

場 所: 未定(決定次第ウェブサイトにてお伝えします)

定 員: 30名

登壇者: 和田昌宏(ヨコハマトリエンナーレ2014出品作家)  
庄司尚子(ヨコハマトリエンナーレ2014コーディネーター)

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトよりお申込みください。

参加費: 無料

#### LOGBOOK

遊んで作るのワークショップ

※LOGBOOK:市原幹也(演出家)と野村政之(ドラマツルク/演劇作家)が共同開発したプロジェクトです。  
<http://logbookinfo.tumblr.com/>

#### LOGBOOK 遊んで作るのワークショップ

LOGBOOKは、まちを海に見立て、その海を航海したあなたの「logbook;航海日誌」をつくり、それを誰かと交換して遊ぶアートプロジェクトです。いつもと違う視点でまちを歩き、自分の発見したまちの魅力からオリジナル「logbook;航海日誌」作りに挑戦します。

●第6回

日 時: 10/26(日) ①13:00~15:30「あそぶ」&「つくる」  
②16:30~17:30「あそぶ」

場 所: 横浜美術館アートギャラリー2

定 員: 各回15名(定員に達し次第、受付終了いたします)

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトより事前申込、または当日ワークショップ会場に直接ご来場ください。

#### きおくのアルバムづくり

ヨコトリ2014のキーワード「忘却」をテーマに、親子の対話から、生まれるまへの世界をイメージして表現。思い出のカケラを共有し、思い出せない記憶を作品にします。ワークショップで制作するのは「アルバム」と「キャンバス」の2つ。「アルバム」は最後にお持ち帰りいただけます。

日 時: 10/25(土) ①10:30~12:00/②14:00~15:30

場 所: 横浜美術館アートギャラリー2

対 象: 3歳~7歳までのお子さまとその保護者

定 員: 各回先着10名(事前申込制)

申 込: ハマトリツ! ウェブサイトより事前申込

※作品をお持ち帰りいただけますので、大きめの袋やバックをご用意ください。  
※絵を描いたり、工作を行いますので、汚れてもよい服装でお越しください。

サポーター企画のイベントのお申し込みは……  
横浜トリエンナーレサポーター “ハマトリツ!”  
公式ウェブサイト  
<http://www.yokotorisup.com>

#### ヨコハマトリエンナーレ2014 公式カタログ

横浜美術館ミュージアムショップおよび新港ピアオフィシャルショップで好評販売中!

ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」  
株平凡社発行 2,800円(税別) B5判変形 368ページ

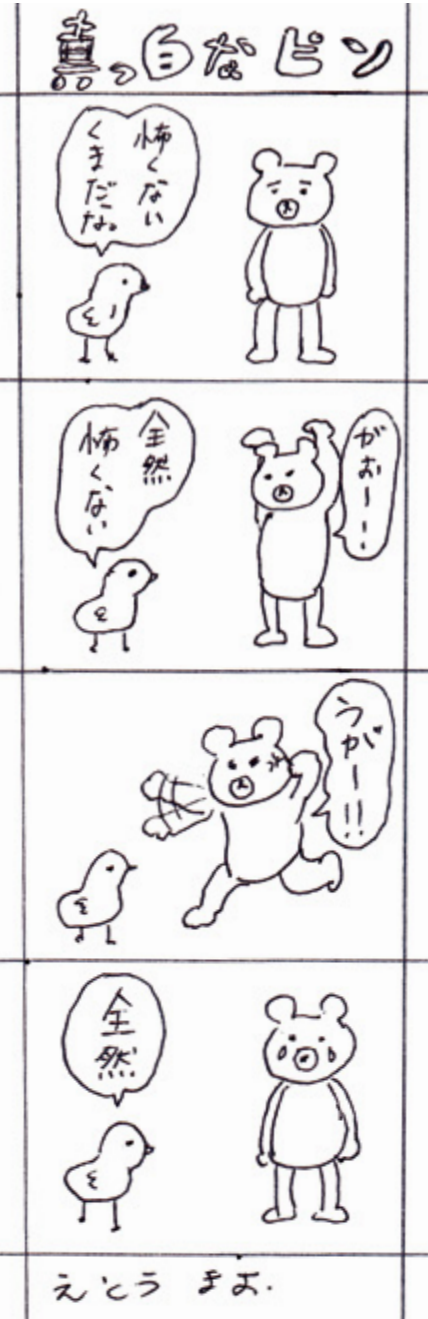
横浜美術館ミュージアムショップ / 新港ピアオフィシャルショップ  
【営業時間】10:00-18:00(11/1は20:00まで)

#### おもてなしマップ第1弾、「忘却」マップ、絶賛配布中!

ヨコハマトリエンナーレ2014来場者やみなとみらい21地区に遊びにきた方々に横浜の魅力をお伝えすべく、横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリツ!」のおすすめ情報をつめこんだ「おもてなしマップ」。第1弾のテーマは「忘却」です。幕末以降開港当時のまちの様子を描いた「横浜絵」を、現代の地図にマッピング。これを片手に、忘れられた過去の景色に思いを馳せながら、いまの横浜を歩いてみませんか? AR技術を用いてお手元のスマートフォン、タブレットと連動させれば、さらに深いトリビアも楽しめる、ユニークなマップです。

横浜美術館入口「Hama-Treats! Station」、ビジターサービスセンター、および新港ピア会場チケットカウンター横にて無料配布中!

お詫言と訂正  
「ヨコトリツ!」Vol.7とVol.8のHama-Treats! Event Calendarにて、「しばいたるか現代アート」および「和田昌宏を解剖する」の参加費に「参加にはヨコトリ2014当日有効なチケットが必要です」との注釈がありますが、正しくはチケット不要です。  
また、Vol.8の森村泰昌の寄稿「おすすめは新港ピアです」にて、殿敷侃の他界の年齢を「四十歳」としていますが、正しくは「五十歳」です。いずれもお詫言して訂正致します。



江藤真央 <http://maeto.tumblr.com>



# ヨコハマに漂着した教室に学ぶ

「釜ヶ崎芸術大学」が横浜美術館に発表した作品は、ヨコトリ2014の作品群の中でひととき人間臭い空間として印象深い。それは、「こえとことばとこころの部屋」(ココルーム)を再現したものだという。9月20-21日、釜ヶ崎の「ココルーム」に集うみなさんが、ヨコトリ2014に来場。お互いふれあう機会の少ないまちのひとと士が、ともに学び、食べ、語らう機会となった。

## 美術の広場に「釜ヶ崎芸術大学:TAKIDASHIカフェ」のテント現れる

9月20-21日、釜ヶ崎の皆さんによる炊き出しが行われました。4時間ほどでテント完成、そこに炊き出し用具が運び込まれ、テーブル椅子がセットされて設営完了。21日、炊き出し終了後から数時間で撤収。最後にブルーシートの一部が、皆さんの手で美術館内のマイケル・ランディの芸術のためのゴミ箱(アート・ビン)に投げ込まれました。設営・撤収、黙々と作業した皆さんの姿が印象的でした。(深野)

## ハマトリーツ!“料理班”も炊き出しに加勢

2日目の料理班に参加しました。初日のメニューは親子丼、2日目はカレー。午前7時より美術館の給湯室前の廊下で、とにかく野菜と豚肉を切る。切る、切る! 2時間ただひたすら切り、釜ヶ崎スタッフが調理するのを待ってから配膳の用意です。現場の鍋はまるで風呂釜、かきまぜるのはボートの櫓のよう。今回の隠し味は熟れたバナナです。すでに11時過ぎからテント前にはオープンを待つ長蛇の列が。飯盛り係とルー

をかける係のスムーズな連携を最優先に、紙皿を1枚ずつはがす係、おかわり専門係も配してスタートしました。ルーだけが残ってしまう懸念も、ごはんの量を微妙に調整しながら見事同時にフィニッシュ! 2時間で700食完食。おいしいという賞賛に加え、7回もおかわりしてくれた人や「これで当分お腹は安心」と言うおじさんもいて、スタッフも笑顔に。とてもやりがいを感じました。(田中)

「ココルーム」で働くスタッフは自分なりの物語を持っていて、それぞれに、現代社会に違和感を持っていて多様な人がいっしょにいれる場所をつくりたいと思ってる。来た若者もいます。また、この職場では自主性が尊重されるので自分のやりたいことがはっきりしてくる人も多々います。辞めて、次のステップに移る方も。ココルームを卒業した人たちが一軒のシェアスペース、二軒のカフェをオープンしました。

先程のトークでは、釜ヶ崎は次第に消えていくまちという話がありました。

まちは変わるものです。そしていま西成特区分構想が持ち上がり急激な変わり目を迎えています。いつも、声を奪われ、あるいは代弁されることはあっても、自らの声を出せない人がいます。でも、自分たちの存在を表現していくことが大事です。自分たちがここに生きていたことをなんとか届けたい。そうやってまちの変わり目に入っていく。なかつたものとして済まされるのではなく、ココルームではいろんなプログラムをつくってみたい。釜ヶ崎芸術大学という名づけをするということによって、いろんなチャンネルを見つけていこうと思っています。ヨコハマ

「ココルーム」を始めたのが、詩人としての仕事をつくるためと伺いました。その点をお聞かせください。

「詩の仕事って何?」「詩人って何する人?」ということをするって考えていました。誰でも、人生をあきらめたくなくなるようなときや自分の存在に意味があるのか考えこんでしまったりする時期があります。私も思春期やいろいろな時期に悩んでいました。でも二行の詩の言葉が自分の気持ちに重なり、ありのまま生きていこうと思えたことがありました。詩というものは、このころがしんどいときに自分の命が存在がそこに「あるよ」ということを知らせてくれるものだと思います。詩は言葉です。そして言葉は態度です。何人の友人を亡くして、私は詩を仕事にしたいと思っただけです。

それから一年程して、大阪の通天閣そばのフェスティバルゲートで大阪市が現代芸術の拠点形成事業を立ち上げたんです。そして二つのスペースの運営を任せられたんです。場の運営を詩の仕事としてやってみようと思っただけです。そこで働いている人は詩人ではない訳ですが、その人たちはどのようなモチベーションで働いているのですか。

「ココルーム」で働くスタッフは自分なりの物語を持っていて、それぞれに、現代社会に違和感を持っていて多様な人がいっしょにいれる場所をつくりたいと思ってる。来た若者もいます。また、この職場では自主性が尊重されるので自分のやりたいことがはっきりしてくる人も多々います。辞めて、次のステップに移る方も。ココルームを卒業した人たちが一軒のシェアスペース、二軒のカフェをオープンしました。

釜ヶ崎芸術大学の拠点ココルーム(NPO法人こえとことばとこころの部屋)。商店街に面した喫茶店で、誰でも気軽に出入りできる。ふらりと顔を見せにくる人、通りすがりの人、旅する外国人など、さまざまの人が出会う貴重な場だ。日に何度も来る人もいる。八月十日に行われたアーティスト・トークの後、上田假奈代さんに話を伺った。

インタビュアー:ウエダ

## 詩の仕事は詩を書くだけではない



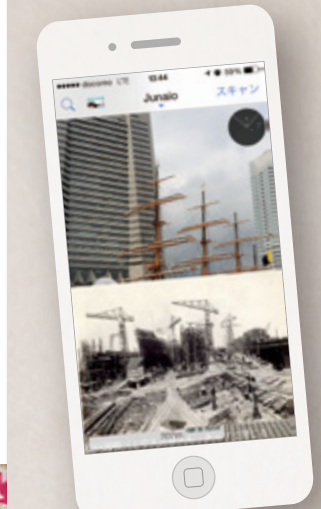
上田假奈代(うへだ かなよ) 1969年奈良生まれ。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめ、1992年から全国で障がいをもつ人や子ども、高齢者など幅広い対象にむけて詩のワークショップを行う。また、2003年に、「表現と自律と仕事と社会」をテーマにアートNPO「ココルーム」を設立。現在は大阪市西成区の釜ヶ崎でそのココルームを運営しながら地域に開かれた様々なアートプロジェクトを展開している。

リエンナーレ2014もその取組みの一環ともいえます。釜ヶ崎だけの問題ではないというお気持ちで取り組まれていますか。

日本中がうすい釜ヶ崎みたいな感じになっていく気がします。上田さんが取り組まれていることが日本中に広がって行くというものがこの答えのかなという気がしました。

日本という世界ですね。戦争がなくなくなり多様な人々がお互いに思いやりあいが生きている世の中にならなっていくと思います。三〇〇年くらいかかるかもしれない。でも三〇〇年後のために今から始めないと、ほんとに地道なことを、今日ひとつひとつのことを丁寧にしていくことによって、世界は変わっていくと思っています。

## サポーターのあしあと



ARポイントにスマホをかざすと昔のヨコハマとトリエンナーレが楽しめる!

スマホと地図でヨコハマを楽しむ「おもてなしツアー」

10月4日、ハマトリーツ!おもてなしプロジェクト主催の「おもてなしツアー」が開かれました。このツアーでは、AR(スマートフォンカメラに表示される現実世界に重ね合わせて文字・写真・動画などの情報を映し出す技術)を活用して街歩きをします。テーマは「みなとみらいの歴史」。ご夫婦や高校生など15人ほどのグループで、横浜美術館を出発、クイーンズスクエア、ドックヤード、汽船道を、ガイドを聴きながら巡りました。数か所のポイントではスマートフォンカメラを掲げて見てみると、かつてこの場所にあったドックや、建設中のランドマークタワー、蚕糸倉庫などの写真がディスプレイに表示されます。まるでタイムスリップしたかのような不思議な感覚が湧きます。参加した皆さんからは「立体的な地図を見ているみたいで面白い」「初めてだったので新鮮。未知の世界!」など、驚きの声が上がりました。普段と違う新しい街歩きを体感したひとときとなりました。(林田)



## 秋祭り出店でパズ作りと風船作りが大人気!

10月4日、高島中央公園で行われた「みなとみらい秋祭り」にハマトリーツ!が出店しました。内容は盛りだくさん。特にギムホンソックの作品を模したバルーン作りと世界に一つだけの缶バッチ作りは子供たちに大盛況でした。バルーンは自分で膨らませ、願い事と一緒に括り付けます。そして気持ちが入ったバルーンと一緒に満足げに記念撮影。缶バッチ作りは台紙へ自由に絵や文字を描き、プレス機でバッチに仕上げます。一人で3個、4個と作りたがる子もいたそうです。

これから盛り上がりを見せそうなのがヨコトリ2014総選挙。ヨコトリ2014出品作品の人気投票ですが、作品紹介にはハマトリーツ!の面々が描いたイラストを使っています。精細なデッサンから大胆に捨象したスケッチまで、これらのイラスト自体も見ものです。この総選挙パネル(ヨコトリみなとみらい新聞)はビジターサービスセンターの奥に設置されていますので、横浜美術館会場へお越しの際にはぜひお立ち寄りいただき、清き一票をお願いします。(田所)



総選挙ではヨコトリ2014の注目作品をサポーターたちの個性あふれるイラストで紹介しています



釜ヶ崎のおっちゃんたちがやってきました!

九月十日(土)、横浜美術館田形フォーラムにて、「釜ヶ崎芸術大学釜ヶ崎」出張講座が開催されました。

お昼に横浜美術館前のグランモール公園にて開催されたTAKIDASHIカフェに引き続き行われたこの講座、内容は「生きる哲学」(西川勝先生、ドキュメンタリー映画「待ます、待む。釜ヶ崎」監督:若原瑞昌)、「狂言・宝調子」(そまが)、「カッパ」の三題目に新喜劇ひと花笑劇団「人生双六」、最後に上田假奈代さんと西川先生によるポストトーク。

釜ヶ崎の人々のモノローグが描かれた映画では、その壮絶さに圧倒されつつもあつからんとした語りかけが笑いを誘うこともしばしば。上映後は監督から釜ヶ崎をテーマに映画を撮ろうと思ったきっかけや撮影時の苦労話などが紹介されました。

映画の後はお楽しみ現役釜ヶ崎大生による公演。途中スキーに乗って直滑降するシーンがあったり舞台から飛び降りキョーティーハーの歌を歌いながら踊りまわったりと、従来の狂言の枠を飛び出したユーモア満載の公演に会場は何度も笑いの渦に包まれていました。

ひと花笑劇団と称した第二部は、「人生双六」(協力:松竹新喜劇)と呼ばれる喜劇。こちらも脚本の楽しさだけでなく演者の皆さんの機転の利いたアドリブで私も何度と無く吹き出しちゃいました。

時の経つのを忘れるくらい盛りだくさん、楽しく刺激的な内容で、あつという間の四時間で。私も次回、関西を訪れたときには是非、釜ヶ崎に足を運んでみたいと思います。(青木)

